

日本政治法律学会
(The Japanese Political and Legal Studies Association, JPLAS)
2023 年度 秋季研究大会 プログラム

10月27日(金) エクスカーション(文化庁及び京都府庁日本館見学)
10月28日(土) 研究大会(京都橘大学)
10月29日(日) 研究大会(京都橘大学)

【共通テーマ】

都市への一極集中を脱却できるか

—地方の政治・法・公共政策を目指して：システムとサブシステム—

連日暑い日が続いていた季節もまだまだその熱を持続させております。会員各位におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、コロナからの脱却が本格化し、海外からのお客様も以前のように見られる中で、紅葉の京都において秋の研究大会を京都橘大学で開催するはこびとなりました。これもコロナ禍におかれましても学びを止めなかった皆様のご研鑽の成果とあってよいのではないかと考えております。

今年の秋の研究大会は、完全にオンサイトで行われる地方大会として4年ぶりの開催ということもあり、日本の地方の課題を視野に考える機会としました。特に「東京一極集中の解消」のための省庁の地方移転への一環として、文化庁が京都府へ2023年3月27日から移転した直後の大会となります。こうした「東京一極集中」の是正のための試みは、始まったばかりですが「地方」の重要性は、ますます増えていくものと考えても良いと考えます。そこにおいて重要であるのは「地方の自律」であるといってもよいのではないのでしょうか。

そこで、中央省庁の地方移転の移転先である京都の政治を注目するパネルを設置いたしました。日本の政治外交史の大家である伊藤之雄先生(京都大学名誉教授)を討論者にお迎えし、京都府の政治史を検証する機会を得ました。こうした地域を中心とした政治史の分析の試みは、「現代政治風土記」を残していく一つの試みと考えることができ、続く多くの研究の嚆矢となると考えております。

さて、そうした東京に代表される「都市」の機能の一部委譲、さらには分権化の進展のなかで、京都の様に、「地方」自体もそうした「都市」に対抗できるだけの機能と能力が求められているのかもしれませんが、場合によってはそこにおける「選択と集中」が求められることもある可能性があります。そうした一つの試みが「平成の大合併」であったといえます。日本の国の在り方を地方から変化させていった「平成の大合併」は、1995年から市町村合併特例新法が期限切れとなる2010年3月末に終了したとされますが、市町村の合併が及ぼした「地方」への影響について、今回はしっかりと検討する良い機会なのかもしれません。新型コロナウィルスの蔓延は、住民に身近な「地方」の自治体の重要性を国民が認識する機会であったといっても良いでしょう。そうした自治体の重要性は、言葉を換えれば「政治システムの中のサブシステム」の重要性を示しているのです。

そうした重要性を理解する上でも、2023年は重要な年といってもよいのではないのでしょうか。第一に、現代の壮大な実験といっても良い、国民国家が国際機構という国際システムとしての「政治システムの中のサブシステム」へと変容していく、国際統合論の一つの分析対象であった欧州統合の主体である欧州連合(EU)の形成につながるマーストリヒト条約の発効から11月1日で30年を迎えるという記念の節目の年であります。日本政治法律学会においては国際法、EU法の研究で著名な本学会顧問である庄司克宏先生(慶應義塾大学名誉教授、中央大学教授)を中心として、このEUの30年が何であったのかを検証するパネルを設けます。第二に、日中平和友好条約の締結から45年という記念すべき年でもあります。日本は国民国家として独立しているだけでなく、東アジアという国際システムという「政治システムの中のサブシステム」であるということを忘れてはならないでしょう。そ

してこの東アジアにおいても欧州同様に隣国と共にサブシステムとして一つの政治システムを構築しているのです。そうしたことを思い起こさせてくれる中国からの研究者である王鵬飛先生（天津師範大学）が、日本の政治の研究報告を行います。また、日中平和友好条約から45周年でもあります。こちらにおきましても、第一線の識者を中心としたパネルを構成することができました。とかく隣国であれば、関係が良くなったり、悪くなったりすることもございますが、「地域」としての東アジアを共有する、「アジア地域のパートナー」としての中国の重要性を再認識する機会となればと存じます。

そうしたサブシステムにおける政治・法・公共政策の対象領域の、現在の、大きな変化をどのように捉えることができるのか。そうしたヒントをこれらのパネルの報告から構想することができるのではないのでしょうか。

それと関連し学会賞も、今回もこれら現代の課題に関連する各領域の代表者に受賞していただくこととなりました。今回の学会賞としましては、現代政治学会賞としては、日本における日本政治史の研究のみならず、国際連合代表部次席大使としても国際的にも活躍されてきた北岡伸一先生（東京大学名誉教授・JICA特別顧問）、現代法律学会賞としては、労働法・社会保障法を専攻されてきた本学会のチャーターメンバーでもある神尾真知子先生（元日本大学法学部教授）、現代公共政策学会賞は、琵琶湖の環境政策の研究など、環境社会学の第一人者の研究者としても、滋賀県知事としても地方政治そして政策に精通していらっしゃる嘉田由紀子先生（参議院議員・元滋賀県知事）、そして報道学会賞は現在でも第一線で活躍され、地域としての京都の政治、法律、公共政策の報道に貢献するところ大であった藺田真紀先生（京都放送（KBS 京都）編成局長）にご登壇賜ることとなりました。受賞者の皆様のこれまでの業績を顕彰もうしあげるとともに、ご講演を通じて、その高い知見を会員の共通の財産とさせていただきますと存じます。

また、政治家のご講演も、今回も第一線の方にご登壇賜ることとなり、大変豪華です。一日目は、野党第一党を率い政権交代を狙う、立憲民主党代表の福山哲郎先生（参議院議員・元内閣官房副長官）に、今後の政権交代に向けた、その戦略をお聞きすることとなっております。二日目は、地方政治の現場に詳しく、維新の台頭以前の大阪府の政治行政をリードされた太田房江先生（参議院議員・元大阪府知事）からお話を伺います。異なる立場から、それぞれ現代という時代を、どう分析されているのかお話し賜ることとなっております。こうした変化する世界に対して、日本のかじ取りである与野党のそれぞれの政治リーダーがどういったことをお話し賜るか、参加者におかれましては、非常に重要な示唆を得るものと思います。

こうした非常に歴史的にも意義のある今大会に、京都橘大学において開催校をお引き受けいただきました開催校理事の山崎将文先生・竹内直人先生・高山一夫先生におかれましては、並々ならぬご努力を賜りましたこと、ここに篤く御礼申し上げます。

対面での学会開催が出来ますこと、これまでコロナ禍で耐え忍んできた会員皆様の自重の賜物と存じております。変化する時代に総合的に政治・法・公共政策を検討出来ますこと幸いに存じます。今年も多くの皆様のご参加を、秋の紅葉に包まれた京都橘大学でお待ち申し上げます。

2023年

秋吉日

日本政治法律学会理事長
白鳥 浩

10月28日(土)

	日本現代政治学会	日本現代法律学会	日本現代公共政策学会
8:50-9:00	<p align="center">《開会式》</p> <p align="center">理事長挨拶：白鳥浩（日本政治法律学会理事長、法政大学） 開催校挨拶：阪本崇（京都橘大学副学長）</p>		
9:00-10:30	<p align="center">《自由論題報告》</p> <p align="center">「日本と中国：パーセプションギャップを超えられるのか」</p> <p>司会：中谷真憲（京都産業大学）</p> <p>報告：</p> <p>① 東郷和彦（元外交官・前京都産業大学世界問題研究所長） 「TBA」</p> <p>② 岑智偉（京都産業大学） 「国際関係のカタストロフィー現象とその解釈-日中関係を例として-」</p> <p>討論：</p> <p>筈米地真理（衆議院議員秘書） 中谷真憲（京都産業大学）</p>		<p align="center">《自由論題報告》</p> <p>司会：白鳥浩（法政大学）</p> <p>報告①：王鵬飛（天津師範大学） 「自民党の党改革をめぐる歴史的考察」</p> <p>報告②：宮崎一徳（法政大学） 「政治主導のマイナンバーカード政策の補正」</p> <p>報告③：竹内直人（京都橘大学） 「H.サイモンから青木昌彦へ～現代組織理論の発展～」</p> <p>報告④：佐賀香織（フェリス学院大学） 「渡辺国武文書からみる第4次伊藤内閣の財政問題」</p> <p>討論：丹羽功（近畿大学） 村岡敬明（大和大学）</p>
10:40-12:10	<p align="center">《パネル①》</p> <p align="center">「京都府の政治史」</p> <p>司会：中井歩（京都産業大学）</p> <p>報告：</p> <p>山田啓二（京都産業大学） 芦立秀朗（京都産業大学）</p> <p>討論：</p> <p>伊藤之雄（京都大学名誉教授） 蘭田真紀（京都放送（KBS 京都）編成局長）</p>	<p align="center">《パネル②》</p> <p align="center">「マーストリヒト条約発効30周年とEU統合の変容」</p> <p>司会：小野義典（城西大学）</p> <p>報告：</p> <p>① 庄司克宏（中央大学） 「マーストリヒト条約とそれ以降におけるEU 機構制度の変容」(仮)</p> <p>② 星野郁（立命館大学） 「マーストリヒト条約とそれ以降における経済通貨同盟の変容」(仮)</p> <p>③ 原田徹（佛教大学） 「マーストリヒト条約とそれ以降におけるEU 政策過程の変容」(仮)</p> <p>討論：白鳥浩（法政大学）</p>	<p align="center">《パネル③》</p> <p align="center">「ポスト・パンデミックの医療福祉政策に向けて」</p> <p>司会：高山一夫（京都橘大学）</p> <p>報告：</p> <p>① 杉谷和哉（岩手県立大学）・森俊郎（名古屋大学大学院） 「一斉休校要請とは何だったのか：研究レビューの日英比較を通じた検討」</p> <p>② 金澤洋隆（国際高等研究所／芦屋市民病院） 「政策決定における因果性探索としての時系列データ解析の有用性と今後の課題」(仮)</p> <p>③ 村上慎司（金沢大学） 「人間の安全保障とリスク社会のサブ政治：パンデミックにおける医療福祉政策の理論的枠組み構築のための試論」</p>
12:15-13:15	日本政治法律学会 理事会／昼食		
13:15-13:30	総会		
13:30-16:30	<p align="center">《学会賞ご講演》</p> <p>現代政治学会賞 北岡伸一（東京大学名誉教授・JICA 特別顧問） 「日本のODAの現状と課題」(仮) プレゼンター 芦立秀朗（京都産業大学）</p> <p>報道学会賞 蘭田真紀（京都放送（KBS 京都）編成局長） プレゼンター 白鳥浩（法政大学）</p> <p>現代法律学会賞 神尾真知子（元日本大学法学部教授） 「男女雇用機会均等法の立法論的課題と女性活躍推進法」 プレゼンター 松野民雄（城西大学）</p> <p>現代公共政策学会賞 嘉田由紀子（参議院議員） 「地球温暖化時代の災害対策－流域治水政策を滋賀県から国政へ」 プレゼンター 白鳥浩（法政大学）</p>		

16:40-17:40	<p style="text-align: center;">《政治家ご講演》</p> <p>講演：福山哲郎（参議院議員） 司会：島田敏男（NHK 放送文化研究所研究主幹、元NHK 解説副委員長） 討論：龍崎孝（流通経済大学副学長、元TBS 解説委員） 松浦淳介（慶應義塾大学）</p>
-------------	---

10月29日(日)

	日本現代政治学会	日本現代法律学会	日本現代公共政策学会
9:00-12:10	<p>《学生コンペ》</p> <p>テーマ：「東京一極集中、都市への集中を考える」</p> <p>司会：後藤新（武蔵野大学）</p>		
12:15-13:30	【政治】理事会/昼食	【法律】理事会/昼食	【公共政策】理事会/昼食
13:30-15:15	<p style="text-align: center;">《パネル④》</p> <p>オーサートーク「持続可能な未来の構築に向けて立法者（議員）に求められる知識・能力（スキル）・倫理」</p> <p>司会：桐谷仁（静岡大学）</p> <p>報告： 足立幸男（京都大学名誉教授）</p> <p>討論： 杉谷和哉（岩手県立大学） 焦従勉（京都産業大学）</p>	<p style="text-align: center;">《パネル⑤》</p> <p>「ケア実践の現場における対話」（仮）</p> <p>司会：根田正樹（高岡法科大学）</p> <p>報告： ① 石田瞳（日本大学） 「多職種専門職の対等な対話によるチーム医療の法的課題」 ② 宮坂道夫（新潟大学） 「臨床現場での意思決定と対話 ～ 現状と課題」</p> <p>討論：池内博一（追手門学院大学）</p>	<p style="text-align: center;">《パネル⑥》</p> <p>「エイジフレンドリーシティ（Age-friendly Cities and Communities）—自治体におけるグローバル・ソーシャルポリシーの展開」</p> <p>司会：古橋エツ子（花園大学名誉教授）</p> <p>報告： ① 増田幸弘（日本女子大学） 「エイジフレンドリーシティとエイジフレンドリーシティ・グローバルネットワーク政策の相互学習を支援する仕組み」 ② 黒岩亮子（日本女子大学） 「エイジフレンドリーシティ政策の導入と展開—秋田市と宝塚市の事例から」</p> <p>討論： 坏洋一（東京都立大学） 「グローバル社会政策論の視点から」 神尾真知子（日本大学） 「フランスの取組みの視点から」</p>
15:25-16:25	<p>《学生コンペ表彰式および審査員コメント》</p> <p>司会：後藤新（武蔵野大学） 審査委員長：新川達郎（同志社大学名誉教授） 審査委員：佐伯祥子（エセクター大学） 佐伯康子（東洋英和女学院大学） 高橋正樹（高岡法科大学副学長、元高岡市長） 宮畑加奈子（広島経済大学）</p>		
16:35-17:35	<p>《政治家ご講演》</p> <p>講演：太田房江（参議院議員） 司会：島田敏男（NHK 放送文化研究所研究主幹、元NHK 解説副委員長） 討論：磯山友幸（千葉商科大学、元「日経ビジネス」副編集長） 山崎将文（京都橘大学）</p>		
17:35-17:40	<p>《閉会式》</p>		

【各種連絡】

I. 学会開催時における昼食について

学会開催時の昼食について、開催校でお弁当（お茶込み）を1000円で販売いたします。事前の注文が必要です。代金は、当日、会場受付でお支払いください。お弁当の注文は、別途メール送信の「第12回研究大会（京都橘大学）お弁当受付フォーム」にて受け付けております。 ※ 締切りました。

II. 1日目プログラム終了後の懇親会について

1日目プログラム終了後、懇親会を開催いたします。参加にあたって、事前のお申し込みが必要です。参加費は6000円です。当日、会場受付でお支払いください。懇親会の参加申し込みは、別途メール送信の「第12回研究大会（京都橘大学）懇親会受付フォーム」にて受け付けております。 ※ 締切りました。

なお、懇親会終了後に、通常運行便とは別に、20:00発「山科駅」行きの臨時バス（京阪バス）を1台運行します。ただし、ご利用には乗車料金220円が必要になりますので、予めご用意ください。

III. 理事会開催のご案内と出欠の確認について

別途メールでご案内の通り、1日目の12:15から日本政治法律学会の理事会を、2日目の12:15から各ディビジョンの理事会を開催いたします。理事会の出欠については「第12回研究大会（京都橘大学）理事会出欠確認フォーム」にて、事前の確認を行っております。理事会員各位におかれましては、ご案内のメールを確認の上、事前の回答にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。（念のため、当該フォームを以下にも記載いたします。）

Google Forms : <https://forms.gle/Tw8RrQ8rRoRfjkr6> ☆ 回答締切り : 10月16日(月) 18:00

IV. エクスカーションについて

10月27日(金)に「文化庁及び京都府庁日本館見学」を実施します。詳細につきましては、案内資料をご確認ください。

- 集合場所：文化庁3号館受付前（京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町85番4）
- 集合時間：14時50分
- 参加方法：事前のお申し込みが必要です。10月20日(金)18:00までに、案内メールに記載のフォーム「第12回大会（京都橘大学）エクスカーション参加受付フォーム」にてお申込みください。（念のため、当該フォームを以下にも記載いたします。）

Google Forms : <https://forms.gle/1fBKtK5rkzYGXv5SA> ☆ 参加申込締切り : 10月20日(金) 18:00

V. 研究大会におけるレジュメ等について

学会開催1週間前を目途に、研究大会の報告ペーパー・レジュメを学会HPにPDFファイルでアップロードします。会員各位におかれましては、当日までに予めHPより報告ペーパー・レジュメをダウンロードまたは印刷してご確認・ご準備ください。

報告者各位におかれましては、10月20日(金)18:00までに、報告ペーパー・レジュメをPDFファイルで事務局(2020jpl@jst.go.jp)までご提出ください。また、上記締切りに間に合わない場合や当日に紙媒体での報告ペーパー・レジュメ配布を希望される場合、会場にて配布頂いて差支えございません。その際、開催校での印刷はいたしかねますので、予めご用意ください。ご用意いただく部数としては、部門内の報告であれば30部、学会統一企画は70部を目安にお考えください。

VI. 開催校所在地等

京都橘大学 〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

交通アクセスについては京都橘大学の大学HPをご参照ください。 <https://www.tachibana-u.ac.jp/about/campus/access.html>

なお、学会HPにも簡易な案内を掲出しておりますので、ご参照ください。

- ◆ 今後のプログラム更新は、随時、学会HP (<https://politicsandlaw.jimdofree.com/>)にてご案内いたします。